

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

7 英語（学校選択問題）

(1) 正答率

問題	配点	正答率		一部正答率		誤答率		無答率		通過率 率=得点計 (人数×配点)(%)	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)		
1	No. 1	2	301	99.3	0	0.0	2	0.7	0	0.0	99.3
	No. 2	2	299	98.7	0	0.0	4	1.3	0	0.0	98.7
	No. 3	2	300	99.0	0	0.0	3	1.0	0	0.0	99.0
	No. 4	2	283	93.4	0	0.0	20	6.6	0	0.0	93.4
	No. 5	2	254	83.8	0	0.0	49	16.2	0	0.0	83.8
	No. 6 (1)	3	297	98.0	0	0.0	6	2.0	0	0.0	98.0
	No. 6 (2)	3	189	62.4	0	0.0	113	37.3	1	0.3	62.4
	No. 6 (3)	3	293	96.7	0	0.0	9	3.0	1	0.3	96.7
	No. 7 (1)	3	219	72.3	13	4.3	68	22.4	3	1.0	74.6
	No. 7 (2)	3	56	18.5	39	12.9	206	68.0	2	0.7	24.8
No. 7 (3)	3	270	89.1	6	2.0	24	7.9	3	1.0	90.3	
2	問1	3	79	26.1	100	33.0	121	39.9	3	1.0	43.2
	問2	4	211	69.6	7	2.3	75	24.8	10	3.3	71.5
	問3	4	80	26.4	154	50.8	36	11.9	33	10.9	54.7
	問4	3	271	89.4	0	0.0	29	9.6	3	1.0	89.4
	問5	4	94	31.0	83	27.4	91	30.0	35	11.6	48.8
	問6 (1)	3	181	59.7	0	0.0	119	39.3	3	1.0	60.1
	問6 (2)	3	186	61.4	0	0.0	114	37.6	3	1.0	61.4
問7	4	55	18.2	77	25.4	96	31.7	75	24.8	33.5	
3	問1	4	84	27.7	34	11.2	110	36.3	75	24.8	34.0
	問2①	3	215	71.0	0	0.0	85	28.1	3	1.0	71.0
	問2②	3	173	57.1	0	0.0	127	41.9	3	1.0	57.4
	問2③	3	100	33.0	0	0.0	199	65.7	4	1.3	32.7
	問3	3	66	21.8	2	0.7	189	62.4	46	15.2	22.6
	問4 A	3	227	74.9	6	2.0	50	16.5	20	6.6	76.0
	問4 B	3	108	35.6	4	1.3	162	53.5	29	9.6	36.2
	問5	3	140	46.2	82	27.1	14	4.6	67	22.1	61.6
	問6 (1)	3	92	30.4	41	13.5	86	28.4	84	27.7	37.8
	問6 (2)	3	23	7.6	19	6.3	102	33.7	159	52.5	11.2
問6 (3)	3	48	15.8	16	5.3	77	25.4	162	53.5	18.2	
4		10	25	8.3	221	72.9	38	12.5	19	6.3	49.0

(小数第2位を四捨五入しているため、の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

No. 1～3 飲食店での注文、美術館での会話、父親の所在を探すなど、日常的な場面での会話を聞いて、絵の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 4、5 明日の予定や、散歩中に落とし物を拾うといった、日常生活における「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

No. 6 バスガイドがツアーの行程や昼食場所について英語で説明している。その説明を聞き取り、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 7 朝の過ごし方について、JohnとKayoが話している。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

2 Naoto、KimmyとAyakoの会話である。帰国するALTへの贈り物を決める話し合いについて、複数のまとまりのある英文を読み、概要や大切な部分を把握し、場面に応じて英語で適切に表現する。

3 Tsuneoは鉛筆の歴史についての記事を見つけ、英語で文章を書いた。この英文を読んで、概要や大切な部分を読み取り、内容についての質問に答える。

4 調べ学習をする際に利用する手段についての英文を読んで、自分の考えを〔条件〕と〔記入上の注意〕に従って、40語以上50語程度の英語で書く。

(3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

No. 1 会話を聞いて、ハンバーガーショップで客が注文したものを選ぶ問題である。会話では、最初に“Can I have one hamburger, two hot dogs and a cup of coffee, please?”と注文したが、ホットドッグが無いと言われ、“OK, then I’ll have one more hamburger, please.”と言っているので正答はBである。

No. 2 会話を聞いて、Mike たちが会話をしている場面や場所を選ぶ問題である。“Look at the bird in this picture”、“My favorite is the picture of a train and a mountain.”と言っていることから、正答はCである。会話全体をとらえたうえで、bird や train、mountain などの情報が何を示しているかを整理して聞き取ることで正答を導くことができる。

No. 3 会話を聞いて、Michael の父親がどこにいるのかを答える問題である。母親が“He has just stopped his car.”と言っているので、正答はAである。

No. 4 Robert に明日サッカーを一緒にできるか尋ねられた Ken が応答する場面である。Ken は明日の午前中に家で母親の手伝いをしなければならいので、午後にサッカーをしたいと思っていることから、正答はBである。

No. 5 父親と散歩をしている Mika が持ち主の分からない鍵を見つける場面で、父親が Mika に何と尋ねるかを問う問題である。「the police station に持っていこう」を表すDが正答である。状況を的確に把握し、適切な表現を選択することが大切である。

No. 6 昼食場所である Saitama Restaurant について説明をするバスガイドの話の聞き取り、英語の質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。

(1) 質問は「Saitama Restaurant で一番人気のあるケーキは何か」というものである。“Most people order the chocolate cake at the restaurant.”から、正答はAである。複数出てくるケーキの種類を整理して聞き取ることで、正答を導くことができる。

(2) 質問は「バスは何時にレストランを出発するか」というものである。“It’s twelve o’clock now. Our bus will stay here for an hour and thirty minutes.”と言っているので、正答はDである。

(3) 質問は「Saitama Restaurant について正しいものはどれか」というものである。“if you want to have food from other countries, Saitama restaurant is a great place”、“You can eat many different foods from all over the world.”と話していることから、正答はCである。メモを取る等して、情報を整理しながら聞く練習をすることで、必要な情報を捉えることができると考えられる。

No. 7 Kayo と John の会話を聞き取り、英語の質問に対する答えとなる英文を完成させる問題である。

(1) 質問は「なぜ John は毎朝日本語の新聞を読むのか」というものである。John が“I read a Japanese newspaper every morning because it’s a good way to learn Japanese.”と言っているので、正答は learn Japanese となる。why で始まる質問に対して不定詞を用いた答え方に慣れておきたい。

(2) 質問は「Kayo は週に何日ラジオで英語の番組を聞くのか」というものである。Kayo が“I listen to it every day from Monday to Friday.”と言っているので、正答は five days a となる。

(3) 質問は「なぜ John は数学の宿題を手伝ってほしいと Kayo に頼んだのか」というものである。John が“I need your help because you’re good at math.”と言っているので、正答は good at となる。

「聞くこと」の学習においては、No. 1のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れていくことが重要である。No. 4や No. 5では、特定の場面・状況で聞いて把握した内容について、この場面ではどのような応答がふさわしいのか考え、適切に応じるための表現を正確に理解することが大切である。No. 6や No. 7のようなまとまりのある英語では、概要や要点を正確に把握するために、メモを取る等の工夫をして、必要な情報を把握し、整理する力を身に付けたい。

2 複数のまとまりのある英文を読んで、概要や大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 与えられた日本語に合うように、空欄に4語の適切な英語を書き、英文を完成させる問題である。正答は **make something else for** となる。

問2 本文の流れに合うように、単語を正しい順序に並びかえて英文を完成させる問題である。正答は **everyone will help us choose a good present for him** である。「help+目的語+動詞の原形」を使用した文構造を構成する力が求められる。

問3 与えられた〔条件〕に従い、基本的な語彙や文法を活用して自分の考えを適切に表現する問題である。解答の仕方として、1文目には英語が上手になるためにすべきことを、正答例 **I think you should talk to people in English.** のように書き、2文目以降にその理由を書くことが必要である。誤答としては、**should** の直後に **listen English** 等、動詞の使い方に多くの誤りがみられた。

問4 本文3の会話と合う英文を選ぶ問題である。Kimmyの発言で“**I think we can use the music classroom at school if we ask our music teacher, Ms. Fukuda.**”と書かれていることから、「Kimmyは音楽の先生に彼らが音楽室を使えるよう頼むだろう。」を意味する、**エ**が正答である。

問5 本文1～4の会話の内容を読み取り、なぜKimmyはMr. Smithへのプレゼントを選んだあと、担任のMr. Kishiに会いに行くのかが問われており、本文中の“**I can borrow a camera from my homeroom teacher, Mr. Kishi, to take new pictures.**”が質問に対する答えとなる。Because she wants to borrow a camera. 等が正答となる。

問6 本文1～4の会話と合うように、示された英語に続く最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。(1)本文4において、Kimmyの発言“**How about giving him the shikishi and all three of these presents?**”に対して、Naotoが“**We don't have enough time to prepare all of them.**”と述べていることから、正答は**イ**となる。(2)本文2において、Naotoの発言“**how about giving him flowers, too?**”に対して、Kimmyが“**I don't think that's a good idea.**”と述べていることから、正答は**ア**となる。

問7 本文の内容をふまえた自然な流れの1文になるように、空欄に4語以上の英語を書く問題である。空欄のある英文の前の発言に、“**Oh, these are good pictures, but we need more.**”とあり、空欄のある英文の後の発言に、“**Didn't Mr. Kishi let you use a camera then?**”とあることから、「2年前の文化祭で撮った写真を持っていませんか」と質問している内容であることを予測すれば、正答の **the pictures you took** 等を導くことができる。

3 まとまりのある英文を読んで、概要や大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。

問1 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。「日本の小学生に使われる初めての筆記具が鉛筆なのはなぜか。」という質問に対して、第4段落に **In Japan, pencils are the first writing tools elementary school students use to learn how to write because pencils are hard to break.** と書かれている。Whyで問われているので、Because pencils are hard to break. 等が正解となる。

問2 英文の流れと合うように、本文中の3つの空欄を補う文として適切なものを選び、それぞれ記号で答える問題である。①について、第2段落では、鉛筆の歴史が述べられている。①の前には **People found it was useful for writing. But, if you hold graphite, your hands get dirty.** とあり、続く文には **These were the first pencils.** とある。つまり、持つと手が汚れるが、何かをすることで最初の鉛筆になる、ということが読み取れれば、**カ**が正答だとわかる。

②について、前文までに、**After about two hundred years, people couldn't find any more graphite in Borrowdale because there was no graphite left there.** と述べられている。②に続く文で **After trying many ways to make pencils, they mixed graphite and sulfur.** とあり、良い黒鉛を得るための試行錯誤の行動が続くことがわかるので、**オ**が正答となる。

③について前文で、Then, the scientist was finally able to make the best lead. It was almost the same as the lead used today.とあり、③以降ではThe company put six pieces of lead between two boards, and then cut them into six pencils. This is almost the same process used to make many pencils at once today.と、現代のスタイルでの鉛筆の作り方について述べられており、ウが正答となる。

問3 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。「(静岡県では、) 1617年以来、(彼が) 使った鉛筆をある神社が守り続けている。」となるため、In Shizuoka Prefecture, a [shrine has been protecting the pencil that he] used since 1617. が正答となる。動詞の理解、現在完了進行形、関係代名詞の目的格の適切な判断を設問のポイントとしている。

問4 英文の流れに合うように、空欄にあてはまる最も適切なものを選んで、それぞれ正しい形に変えて答える問題である。Aについては、These pencils made in Japan were A in an exposition in Ueno, Tokyo in 1877.とあることから、Aには動詞の現在分詞か過去分詞があてはまる。主語がThese pencilsなので、受動態「見せられた」という意味になるshowを選び、過去分詞のshowed / shownが正答となる。

Bについては、If there B no pencils, it would be much more difficult for children in Japan to practice writing.とあることから、Bにはbe動詞が入ることがわかる。続く節では「日本の子供たちが筆記を練習するのが難しかっただろう」とあり、仮定法の表現であるwouldが使われているので、wereが正答となる。

問5 本文の内容に関する日本語の質問に対して日本語で答える問題である。下線部はI thought this was amazing! であり、Tsuneoが驚いたことを答えればよい。Tsuneoが驚いた内容は“Do you know how long you can write with just one pencil? I read an article on the Internet. It said you can draw a line about 50 km long!”である。よって、正答例は「一本の鉛筆で約50キロメートルの線がかけること」等となる。

問6 本文の内容をまとめた英文の空欄に、適切な英語をそれぞれ2語で答える問題である。

(1)については、Tsuneo used pencils in elementary school, but he stopped (1) in junior high school. と続くことから、stopに続く動名詞とその目的語が(1)に入ることがわかる。本文の第1段落に、“I always used pencils made of wood in elementary school, but after that, I only used mechanical pencils.”とあることから、「鉛筆を使うことを止めた」と考え、動名詞とその目的語を用い、using them等が正答となる。

(2)については、“For example, he learned when and where the first pencils were made, and he learned how people (2) better and how pencils were introduced to Japan.”とあることから、peopleにつづく動詞がくることと、また、後ろにbetterがあることから、動詞+目的語+補語のかたちの文であることが推測できる。第2段落に鉛筆の改良の過程・歴史について述べられていることから、「人々が～をよりよくした」と表現できると考えれば、made pencils等が正答となる。

(3)については、本文の第5段落に、“Pencils have a very interesting history. It was very surprising to learn about.”とあることから、鉛筆の興味深い歴史を学ぶことは驚くべきものであったと述べていることがわかる。問題文の主語はTsuneoであるため、surprised to等が正答となる。

様々なテーマや分野に関するまとまった長さの英文を読み、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

4 スピーチやプレゼンテーションをする際に必要な調査についての英文を読んで、与えられた条件と記入上の注意に従い、まとまった内容を英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。文中にある「調査のために図書館やコンピュータ等をどのように利用しますか。」という質問に対して自分の考えを述べ、さらにその理由がわかるように全部で40語以上50語程度の英語でまとめることがポイントである。

正答にならなかった解答では、[information]に複数形のsを付けてしまったことによる文法上の誤りが最も多くみられた。また、[research]の綴りの誤りや、[easily]や[quickly]等の品詞の誤用がみられた。

問題に正対し、適切な表現を用いて内容に一貫性のある文章を書けているかということに注意を払いたい。また、文のつながりや展開等にも意識を向け、自分の考えや理由等が読み手に正しく伝わる文章を書く力を充実させたい。